

ほんのもり

No. 6 2024.10

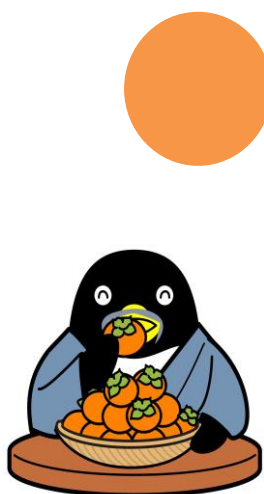
富岡中学校図書館
学校司書 村木加津



～富岡中図書館だより～

『灯火親しむべし』という言葉を知っていますか？

意味は「気候がさわやかな秋の長い夜は、灯火のもとで読書をするのに適しているということ」（故事ことわざ辞典（学研）より）です。中国の韓愈（かんゆ）という人が息子に読書の大切さを教えるために読んだ漢詩の一説で、『読書の秋』の由来となったとも言われています。みなさんも、気になっていた本や興味のあるテーマの本など図書館で探してみてはいかがでしょうか？



良夜とは、仲秋の名月の夜のこと。

今月の一句について・・・
つい先ほどまで、縁側に
すわって月をみていた。本
当に美しい月だった。だが、
そうしていてもきりがな
いので、私は、部屋に戻って
読書を始めた。ふと気がつ
くと、家人もそれぞれ部屋
で読書をしているらしい。
物音一つしない。

今月のテーマ

♪ 『音楽』



『廉太郎ノオト』 谷津矢車 913 ヤ

「春のうららの隅田川♪」「もういくつ寝るとお正月♪」
誰もが知っている作曲家『瀧廉太郎』。11歳で最愛の姉を亡くし、父親とは対立しながらも東京音楽学校へ入学し才能を開花させます。そしてドイツに留学するのですが・・・。

曲は、よく知っていますが、廉太郎のことを知っている人は少ないかも知れません。高校の課題図書にもなりました。中学生でも十分に読めますよ。

『歌え、多摩川高校合唱部！』

本田有明/著 913 ホ

混声合唱なのに男子が4人しか残らなかった。
そこへ元気だけが取り柄の新入部員が押し寄せ
て……。Nコン第70回大会に向けて奮闘した
実話にもとづく小説です。

『ラベンダーとソプラノ』 額田濤/著 913 ヌ

小学6年生の真子は、合唱部に入っている。「今年こそ、コンクールで金賞を」と意気込んでいるけれど、プレッシャーと厳しい練習で、合唱クラブは崩壊寸前。そんなとき、真子は美しいボーイソプラノを持つ少年・朔と出会う。朔に連れていかれた商店街の合唱団は、練習もゆるゆるだし、全然上手じゃない。でも、みんなとても楽しそうだった。がんばることの意味やクラブのあり方を考えはじめる」真子だった。

人それぞれ書を読んでる良夜かな

今月の一句

山口青邨

お仕事特集！

おもしろい本が読みたい人は、
この指と一まれ。



本の内容紹介は各出版社商品紹介などから抜粋

『令和ブルガリアヨーグルト』913ミ 宮木あや子/著

吾輩は乳酸菌である。名前はブルガリア菌 20388 株。学生時代に読んだネット投稿小説がきっかけでブルガリア菌「推し」となった朋太子由寿（ほうだいしゆず）。ヨーグルト会社に就職した由寿を温かく見守っている。入社して 1 年後、由寿が「ブルガリアヨーグルト 50 周年特集」の社内報制作を担当することになり関係社員にインタビュー取材を行ってゆくのだが・・・。

『ゴミの王国』913ア 朝倉宏景/著

父の影響で過剰にきれい好きになった日下部朝陽（くさかべあさひ）は東京の民間清掃会社で契約社員として働いている。ある日、となりの部屋に住む佐野友笑の部屋がゴミであふれかえっていることに気がつく。物を捨てられない友笑は、ゴミを集めてはアート作品を作っていた。片づけたい男と片付けられない女。正反対のふたりの未来は・・・。

『図書館のお夜食』913ハ 原田ひ香/著

東北の書店に勤めるもののうまくいかず、書店の仕事を辞めようかと思っていた樋口乙葉は、SNS で知った、東京の郊外にある「夜の図書館」で働くことになる。そこは、開館時間が夕方 7 時から 12 時までで、亡くなった作家の蔵書が集められた図書館だった。本好きの同僚に囲まれながら「働くこと」について考えていく。そして本に登場する料理がまかないとして出てくるのだ。「しろばんばのカレー」や「赤毛のアンのパンとバターときゅうりのサンドウィッチ」などなど。

『和菓子のアン』913サ 坂木司/著

デパ地下の和菓子店「みつ屋」で働き始めた梅本杏子（うめもときょうこ）、通称アンちゃん。プロフェッショナルだけど個性的すぎる店長や同僚に囲まれる日々の中、歴史と遊び心に満ちた和菓子の奥深い魅力に目覚めていく。謎めいたお客さんたちの言動に秘められた意外な真相とは？

読めば思わず和菓子屋さんに走りたくなる、美味しいお仕事ミステリー！！

『おしごとそうだんセンター』913ヨ ヨシタケシンスケ/著

地球に不時着した宇宙人がやってきたのは、風変わりな職業相談所。宇宙人は相談所のスタッフといっしょに、働くことの意味を考え・・・。「仕事の意味」を問い直し明日をちょっと明るくするヨシタケシンスケ版「ハローワーク」ストーリー。

『総理の夫』913ハ 原田マハ/著

20XX 年、相馬凜子は 42 歳にして第 111 代総理大臣に選出された。夫である私・日和は鳥類研究家でありながらファースト・レディならぬファースト・ジェントルマンとして、妻を支えようと決意する。

凜子は美貌、誠実で正義感にあふれ、率直な物言いも共感を呼んで支持率ばつぐん。だが、国民目線の政策には、政財界の古くさいおじさん連中からやっかみの嵐。こともあろうに夫の日和へも触手を伸ばしてきた。はたして、凜子の理想は実現するのか？